

# 実験医学

増刊

2017年  
Vol.35 No.20

広告掲載  
のご案内

拝啓 貴社益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さてこの度、実験医学増刊『Productive Agingを実現する老化・寿命研究の最先端(仮題)』を右記内容にて発行いたします。つきましては、貴社の優秀な機器・試薬・書籍等の広告をぜひご掲載いただきたく、お願い申し上げます。ご出稿の特典として、羊土社ホームページに広告掲載会社のリストが掲載され、御社のホームページとリンクされますので、ぜひご覧ください。

敬具

## 広告掲載料金

掲載面	刷色	スペース	掲載料金
表紙4	4色	1P	300,000
表紙3	4色	1P	200,000
	1色	1P	150,000
表紙2	4色	1P	250,000
	1色	1P	170,000
中付 (記事中)	4色	1P	150,000
	1色	1P	110,000
後付	4色	1P	150,000
	4色(ブリード)	1P	165,000
	1色	1P	90,000
	1色	1/2P	55,000
差込		1枚	200,000

写真修正・図案・版下・製版等は実費をいただきます。  
価格には、消費税は含まれておりません。  
ご掲載の頁をご指定される場合は、一割増の料金を申し受けます。  
ご掲載の頁をご指定される場合、各箇所に1頁まで(先着1社)とさせていただきます。

## 発行概要

発行部数 : 8,000部  
発行日 : 2017年12月5日(火) 予定  
広告申込概要 B5判オフセット印刷  
申込締切日.....2017年10月25日(水)  
原稿締切日.....2017年11月1日(水)  
日程は変更になる場合がございます  
広告の掲載内容を確認させていただく場合がございます

### [モノクロ広告] データ

1頁 .....天地 220 mm × 左右 150 mm  
1/2頁 .....天地 105 mm × 左右 150 mm

### [カラー広告] データ

1頁 .....天地 220 mm × 左右 150 mm  
ブリード版 .....天地 257 mm × 左右 182 mm  
表紙4 .....天地 192 mm × 左右 150 mm  
表紙4ブリード .....天地 202 mm × 左右 160 mm

入稿形式(データの場合): Adobe Illustrator  
使用したOSとソフトのバージョンをご明記下さい。  
データは必ずアウトライン化して下さい

【発行元】株式会社 羊土社

〒101 0052  
東京都千代田区神田小川町 2 5 1  
TEL 03 5282 1211 FAX 03 5282-1212  
URL <http://www.yodosha.co.jp/>

【広告総代理店】株式会社 エー・イー企画

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-4-4  
岩波書店一ツ橋別館4F  
TEL 03 3230 2744 FAX 03 3230 2479  
E mail: [adinfo@aeplan.co.jp](mailto:adinfo@aeplan.co.jp)

## 広告掲載申込書

年 月 日

下記の通り、実験医学増刊『Productive Agingを実現する老化・寿命研究の最先端(仮題)』に広告掲載致します。

貴社名: \_\_\_\_\_ TEL: \_\_\_\_\_ FAX: \_\_\_\_\_

所在地: 〒 \_\_\_\_\_

担当者名: \_\_\_\_\_ 所属 \_\_\_\_\_ E-mail: \_\_\_\_\_

掲載場所: \_\_\_\_\_ 頁/枚 \_\_\_\_\_ 掲載料金: \_\_\_\_\_

支払方法: \_\_\_\_\_ 支払日: \_\_\_\_\_

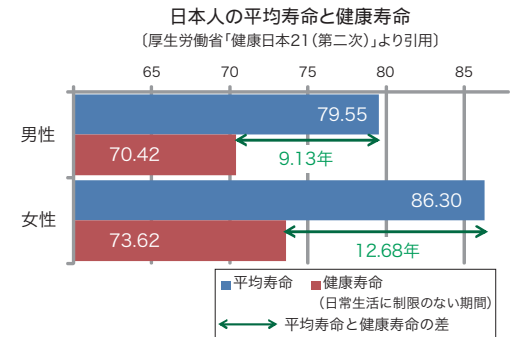
# Productive Agingを実現する 老化・寿命研究の最先端(仮題)

編集: 今井眞一郎(ワシントン大学), 吉野純(ワシントン大学), 鍋島陽一(先端医療振興財団)

## 本特集号の概要と企画背景

世界的に社会の高齢化が深刻な問題となりつつある現在、老化・寿命研究が大きく進展しています。なかでも、健康で活動的である期間(健康寿命)をより延伸させること、“Productive Aging”が強く求められており、厚生労働省の推進する「健康日本21(第二次)」においても、「健康寿命の延伸」が目標の一つに据えられています(右下図)。

日本における老化研究はこれまで、加齢にともない発症する疾患(メタボリックシンドローム, 認知症, 骨粗鬆症など)の研究を中心に進展してきました。一方で上記のようなProductive Agingを実現するには、「そもそもヒトはどのように老いるのか」という根本的な疑問を解明する、老化・寿命に対する基盤的な研究を進める必要があります。そこで本書では、そのような基盤的な研究の最新情勢を紹介するとともに、そのような研究が社会に与えるインパクトを考えるため、海外研究者のインタビュー記事や、メディア、経済、政策など各視点からの考察を交え研究の意義を考察します。今後の日本の研究と社会を左右する一大テーマを総力特集いたします。ぜひご協賛のほどお願い申し上げます。



本書の  
注目ポイント

- 1 AMEDでも今年度より研究プロジェクトが立ち上がるなど  
科学界・産業界の大きな注目を集めるテーマです!
- 2 がん, 幹細胞, 代謝をはじめとする, 生命科学・基礎医学の  
幅広い層で注目必至の話題です!
- 3 ConBio2017(12/6~9)をはじめとする多数の学会にて販売する予定です!

## 本書に関連する研究技術・キーワード

- ◆代謝・栄養 ◆幹細胞 ◆細胞老化と個体老化 ◆酸化ストレス
- ◆モデル動物 ◆抗老化方法論(食品・薬剤・運動など) ◆老年医学・医療
- ◆腸内細菌叢 ◆抗老化の血液因子 ◆サーチュイン ◆脳科学 ◆医工学
- ◆バイオマーカー ◆医療経済学 …など

▶ 本書の詳しい内容は、裏面をご覧ください



さまざまな分野の研究者に御社の優れた製品をアピールするチャンスとして、ぜひご活用ください!

# Productive Agingを実現する 老化・寿命研究の最先端 題

編集：今井眞一郎（ワシントン大学），吉野純（ワシントン大学），鍋島陽一（先端医療振興財団）

## 第1章 老化・寿命研究の最先端

## 第2章 世界における老化・寿命研究と医療の現在

- 1) TAME Study (targeting aging with metformin) a mie Nicole Justice (ウェイクフォレスト大学)
- 2) ドイツにおける高齢化とMax Planckとしての研究の取り組み  
Adam Anteb (マックス・プランク老化生物学研究所)
- 3) 細胞老化研究と英国の老化・寿命研究動向  
成田匡志 (英国がん研究所)
- 4) ロコモーターシンドロームに見る日本の老年医療の現在  
樂木宏実 (大阪大学大学院医学系研究科)
- 5) 日本における百寿者研究の最先端  
新井康通 (慶應義塾大学百寿総合研究センター)

## 第3章 エビデンスに立脚した抗老化方法論を求めて

- 1) 老化・代謝制御におけるmicrobiomeと創薬応用  
木村郁夫 (東京農工大学大学院農学研究院)
- 2) NAD合成中間体を用いた抗老化方法論  
吉野 純 (Washington University School of Medicine)

- 3) Parabiosis 実験から明らかとなった血液因子の重要性  
Amy Wagers (ハーバード大学)
- 4) 医療のbig data analysisと抗老化方法論  
北野宏明 (ソニーコンピュータサイエンス研究所)
- 5) アスピリンの大腸がん予防効果と抗老化作用  
石川秀樹 (京都府立医科大学)

## 第4章 キーパーソンインタビュー 次世代の老化・寿命研究に向けて

に の で活 する研究者の の を します

- 1) Dog Aging Project rapamycin投与の抗老化試験  
Matt Kaeberlein (University of Washington)
- 2) Sirtuin生物学の最新の話  
Leonard P. Guarente (マサチューセッツ工科大学)
- 3) 細胞老化と個体老化 老化細胞除去による寿命延長  
Jan M. van Deursen (メイヨー・クリニック)
- 4) Geroscience Initiative Japanの設立と意義  
鍋島陽一 (先端医療振興財団)
- 5) ベンチからベッドへ進む老化・寿命研究の最先端  
今井眞一郎 (Washington University School of Medicine)

## 第5章 Productive Agingを目指して 社会実装の試み

- 1) 運動の抗老化作用とその実践  
樋口 漣 (早稲田大学スポーツ科学学術院)
- 2) 脳老化研究から得られた事実に基づくアルツハイマー病の発症予防  
柳澤勝彦 (国立長寿医療研究センター)
- 3) 工学的アプローチによる超高齢社会への挑戦  
伊福部 達 (東京大学高齢社会総合研究機構)
- 4) 認知介入によるスマート・エイジング実現の試み  
川島隆太 (東北大学加齢医学研究所)

## 第6章 老化・寿命研究の社会的的重要性

- 1) 日米における老化・寿命研究の比較  
瀬川茂子 (朝日新聞社)
- 2) 日本の老化研究の方向性について(政策立案の立場から)  
原 克彦 (文部科学省ライフサイエンス課)
- 3) 老化研究の医療経済的な重要性(経済学者の立場から)  
清家 篤 (慶應義塾大学商学部)
- 4) 老人の貧困化を防ぐために必要な老化・寿命研究の提言  
唐鎌直義 (立命館大学大学院社会学研究科)

続刊予定

2018年月発行予定

がんの不均一性の理解と治療抵抗性への挑戦(仮題)

編集 / 谷内田眞一 (大阪大学大学院医学系研究科 / 国立がん研究センター)